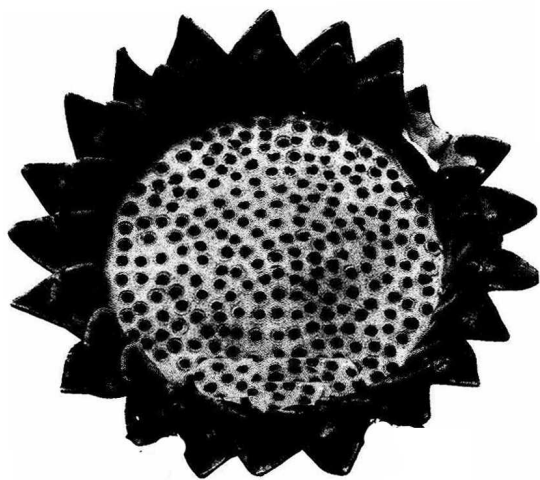


ちいさな物みつけた
五木寛之



集英社



ちいさな物^{もの}みつけた

一九九三年二月一〇日 第一刷発行

著者 五木寛之^{いつきひろゆき}

発行者 若菜 正

発行所 株式会社集英社

〒一〇〇 東京都千代田区一ツ橋二一五一一〇

編集部 (〇三) 三三三〇一六一〇〇

電話 販売部 (〇三) 三三三〇一六三九三

制作部 (〇三) 三三三〇一六〇八〇

印刷所 大日本印刷株式会社

検印廃止

乱丁・落丁本が万一ございましたら、小社制作部宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

ちいさな物みつけた

目次



ペルシャ女の泪なみだの色は……………8

ゴルフ人は自然と戦う……………12

ペテルブルクの冬ふゆみやげ土産……………16

筑豊に吹く軽やかな風……………20

人形という名の訪問者……………24

小さな器うつわの大きな世界……………28

美に魅せられた人びと……………32

画学生になりたい気分……………36

これが本当の無印むしゅしん良品……………40

青丹あおによしのオリジナル……………44

燈下頼杖パリのランプ……………48

列島最後の楽園与論島……………52



美しきものきたれり……	56
野に咲く葛花のように……	60
名も知らぬ遠き島より……	64
イタリアいまだきの靴……	68
白人を発見した人びと……	72
たかが靴紐 されど靴紐……	76
イタリアの美 その魅力……	80
バッグに托した男の夢……	84
古典音楽と空飛ぶ円盤……	88
江差 ^{えさし} 名物数かずあれど……	92
ペルシャの壁のかげら……	96
創り手が作品である人……	100



揺れうごくロシアの魂	104
美は少きを尊しとせず	108
蜜蜂たちの歌うアリア	112
百万ドルの宝石よりも	116
小さな絵の大きな世界	120
鈴鹿のエルミタージュ	124
ワルシャワからの土産	128
一九九〇年の TAMARA	132
過ぎし日の忘れがたみ	136
流れゆく時をきざんで	140
女人玉 おんなたま を抱いて罪あり	144
平成芸術風呂敷 豆の花	148



深夜の友人こそ真の友	152
美しいだけのブルガリ	156
うつろい易き人の世に	160
男が提げて似合うもの	164
モノに命を感じるとき	168
値段のつかない宝もの	172
人形に命を感じるとき	176
高い山から谷底みれば	180
ティファニーで便箋を	184
印度の袋は地球の子宮	188
パロックふう琥珀細工	192
あとがきにかえて	196

装丁 三村 淳

写真 中本 徳豊

ちいさな物みつけた

ペルシャ女の涙の色は なみだ

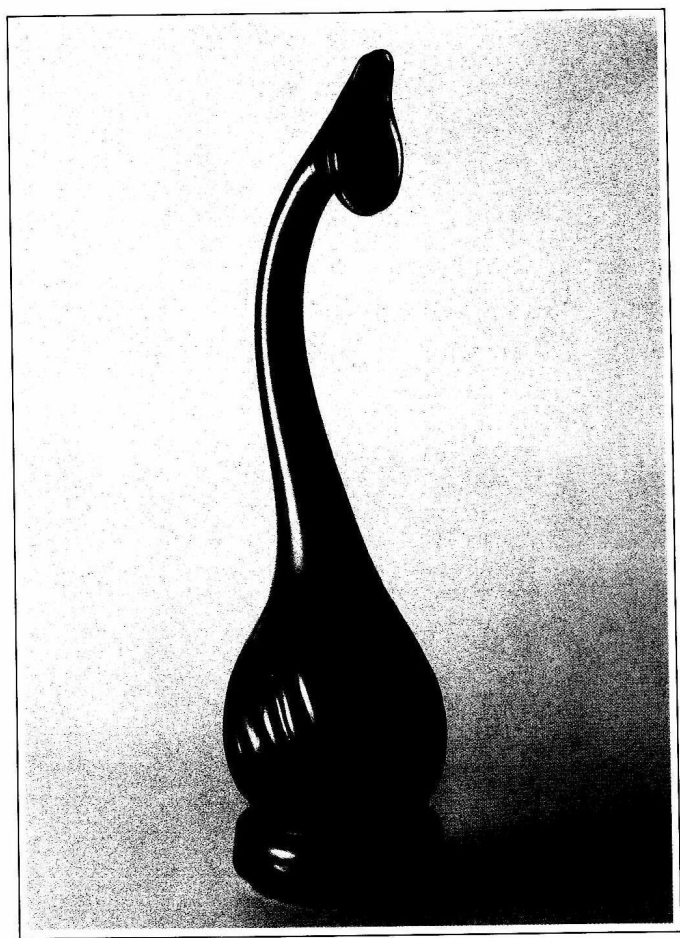
奇妙なかたちをしている。うつくしい青である。用途がわからない。

この壺を見たとき、一瞬、ん？ と思った。場所はペルシャ。現在のイランである。濃い木陰にひっそりと店を構えている古道具屋で、棚のはしのほうにほこりをかぶって立っているこの壺に出会ったとき、一種、異様な印象をうけた。

花をさす器うつわだろうか。それにしては、開口部が不安定である。真赤なケシ一輪いけて、翌日にはだらりと首が下へ垂れているなんていうのは不吉な感じではないか。ぼんやり眺めているうちに、ひよっとすると、これがあの有名な涙壺なみだつぼではないか、という考えが頭をかすめた。

泪壺。

なんという美しい音の響きだろう。はじめてその文字を目にしたとき、ぼ



くは思わず声に出して何度もうり返し朗読してしまった。泪壺のくわしいわれは知らない。ただどこかで前に読んだことがあって、それがずっと頭の奥にこびりついていたのだ。

昔、ペルシャの女たちは愛する恋人や夫たちを兵隊にとられて、哀しい日々を過ごさねばならなかった。どこの国でも、どんな時代でも同じようなものだろう。女たちは黙ってそれを耐え、ひそかに涙を流した。そこまでは万葉集の中に出てくる女たちと変らない。だが、ペルシャの女たちは、毎夜あふれる涙を、この奇妙なかたちをした壺にためることにしたのだ。

この壺を片手にもって、そっと目に当てる。涙が一滴も外へこぼれないように静かに壺の口をあてがって、声を出さずに泣く。あとからあとから涙はあふれてくる。戦場であの人はどんな暮しをしているのだろうか。私のことを思つて眠れぬ夜を過ごしているのかもしれない。もしも、負傷したらどうしよう。あの人が戦死するようなことがあったら、私は生きてはゆけない。そして、戦争はいつ終るのだろうか。

流された涙の量だけ哀しみは深い。哀しみの量だけ愛も大きい。だからあ

ふれる涙はこのブルーの壺にためられて、日ごとにその量が増えてゆく。戦争が終って、彼が家に帰ってきたとき、彼女はその壺を黙ってさし出すだろう。男も黙ってそれを眺めるだろう。言葉はいらない。壺の中に揺れる涙の重さが、すべてを語っている。

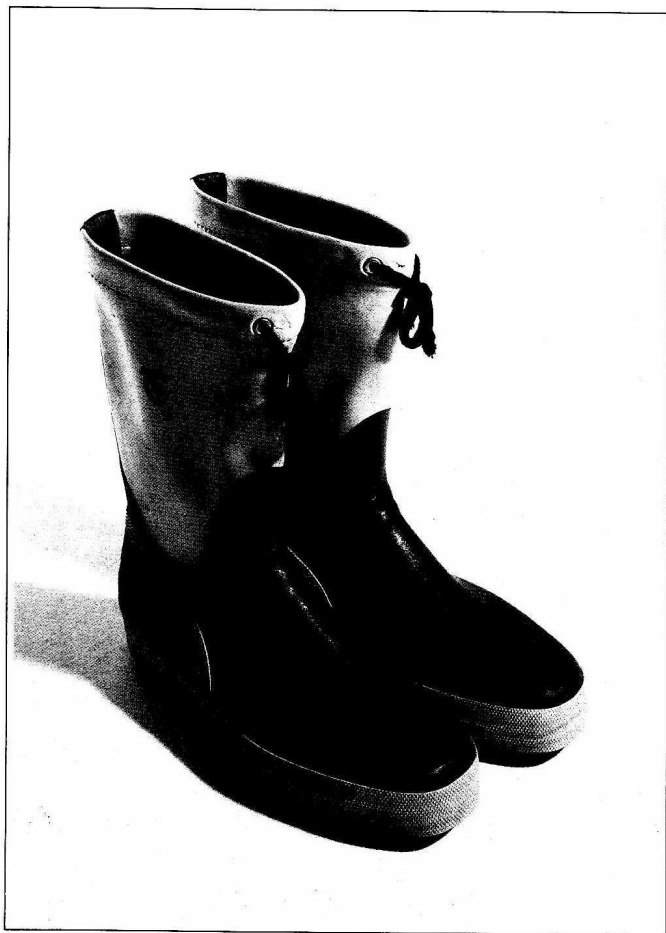
「イランは空気が乾いてるから、すぐに蒸発してしまうんじゃないの」

と、科学的な疑問を提出した女性がいたが、そんなことはどうでもいい。ぼくは空の泪壺を眺めているだけで贅沢な夢を見ている気分になるのである。

ゴルフ人は自然と戦う

ラグビーや競馬と同じように、ゴルフもまた自然と戦うゲームだ。雨の日にもよほどのことでなければ中止にすることはない。濡れながら球を追いかけてコースを歩くことを、ぼくは必ずしも嫌いではないのである。なぜかといえ、文明生活の中で人間はいつのまにか快適な生活に慣れてしまつて、雨に打たれながら歩いたり、体の芯まで冷える体験が少くなつてきているではないか。そんな中で遊びとはいへ、自然と戦い、厳しい条件の中でプレイするのは、どこかマゾヒスティックな快感があるからだ。

このゴム長は北欧でみつけて買った。一見、何の変哲もない長靴だが、この靴の底には鋭い鉄のスパイクが打ち込まれている。つまり、これを履けばどんなにルールにうるさいゴルフ場でもオーケーというわけだ。森と湖の国であるスウェーデンには意外にゴルフ場が多い。イギリスに次いでヨーロッパ



パでは最も多くのコースを持つのがスウェーデンだと聞いたことがある。なかにはモーターボートに乗って出かけて行くようなとんでもないコースもある。満ち潮の時はフェアウェイが水でぐじやぐじになってしまうのだ。そんな所でプレイするためにヴァイキングの末裔^{まつえい}が作り出したのが、このスパイクつきのゴム長である。

一般にいわれる防水用のゴルフシューズでも、ヘビイな雨には耐えることができない。靴下の中まで水がしみこんでくるのをなんとか我慢しながらワシ・ラウンドおえて、指の間が白くふやけてしまっていることに気がつかれたかたも多いことだろう。その点、このスパイクつきのゴム長は完璧だ。ウールの靴下を履いてこの長靴に足をつつこめば、まるで天国にいるような気分になってしまう。雨よこい、風よこい、と、ひたすら天候が回復するのを祈っている他のゴルフアーたちを尻目に、喜び勇んで悪コンディションの中をスタートすることができる。

本当のことを白状すると、ぼくはまだこの長靴を履いてコースへ出たことは一度もない。なぜかといえば、底に釘がついているのがちょっと見ただけ